

第22回国連CEFACTフォーラム会議報告

2013年10月12日～10月20日

サルディニア（イタリア）

報告者：国連CEFACT日本委員会

サプライチェーン情報基盤研究会

菅又 久直

I. 会議日程：

- 10月12日（土） 東京発 サルディニア着
- 10月13日（日） 会議準備
- 10月14日（月）－ 10月18日（金） 国連CEFACTフォーラム
会議場：キア・リゾート・コンファレンスセンター
- 10月19日（土） サルディニア発
- 10月20日（日） 東京着

II. 会議目的と参加者：

国連CEFACTは、貿易手続の簡易化と電子ビジネスの促進、およびそれらに関するグローバルなポリシーや技術仕様の制定を目的として設立された国連組織である。

小生は、国連CEFACT新組織の中で、サプライチェーン分野の開発に貢献するとともに、今後のアジアおよび日本における電子ビジネス関連標準の推進方策を見通すことを目的に、一般財団法人日本貿易関係手続簡易化協会の依頼により本フォーラムに参加した。

今回の参加者は実参加ベースで81名、日本からは次の5名が参加した。

- 石垣 充（日本貿易関係手続簡易化協会）
- 鈴木 耀夫（旅行電子商取引促進機構：SLHドメイン・コーディネーター）
- 遠城 秀和（株式会社NTTデータ：品質評価コーディネーター）
- 阪口 信吾（NECシステムテクノロジー：BDHプロジェクト・リーダー）
- 菅又 久直（国連CEFACT日本委員会・サプライチェーン情報基盤研究会）

フォーラムでは、PDA（Program Domain Area）ごとに会議が進められる。小生は、統合戦略と作業プログラムの審議に参加するとともに、サプライチェーンPDAを中心に参加した。

III. 会議報告：

- 1. オープン・プレナリ
- 1. 1 オープニングスピーチ

次の3氏よりスピーチが行われた。

Tom Butterly (*Deputy Director, UNECE Economic Cooperation, Trade, and Land Management Division and Chief of Global Trade Solutions Section*)

→国連 CEFACT の統合戦略 (ISF: Integrated Strategic Framework) および 2014 年～2015 年の作業プログラム (POW: Programme of Work) は次回総会 (2014 年 4 月) で決議される予定。また、次回総会ではビューロー副議長の改選も行われる。それらは、国連 CEFACT の母体である国連 ECE の上級委員会の評価対象でもあり、国連 CEFACT の今後のあり方を決める重要事項で、エキスパート (国連 CEFACT フォーラム出席者) の方々にも充分審議してもらいたい。

Claudio Padua (*Permanent HoD for Italy to UN/CEFACT, Ministry of Economic Development of Italy*)

→イタリアは、一国では解決することが困難な、経済や不法移民などの問題も多い。国連 CEFACT の活動などを通じて、Trade Hub になるべくプロジェクトを立ち上げている。

Stuart Feder (*UN/CEFACT Plenary and Bureau Chair*)

→本フォーラムで、ISF および POW につき審議し、エキスパートの意見を聞き合意形成に役立てたい。

1. 2 PDA のフォーラム作業プログラム

今フォーラムでの各 PDA/Domain の主な審議予定。

国際貿易：

- ・ 勧告 14 号 (14 Authentication of Documents by means other than Signature) の改訂審議。
- ・ モバイル・ビジネス情報に関わる勧告プロジェクト化の審議。
- ・ 勧告 36 号 (Single Window Interoperability) プロジェクト審議。
- ・ コンサルテーション・アプローチのプロジェクト化に関わる審議。
- ・ PPP (Private Public Partnership) のケーススタディ。

運輸／ロジスティックス：

- ・ 複合一貫輸送 (Multi Modal Transport) 情報項目の開発。
- ・ 積荷情報 (Freight Information) 交換の共通フレームワーク検討。
- ・ 海運における Ro-Ro (Roll on – Roll off) 交通メッセージ。
- ・ 貨物追跡プロジェクトの進捗。
- ・ B.I.C コンテナ・メッセージ提案。
- ・ 原産地証明プロジェクト (韓国提案)
- ・ 海洋貨物電子インボイス提案。

税関：

- ・ 廃棄物管理。

サプライチェーン：

- ・ CCL3 プロジェクト。
- ・ 法的通知プロジェクト。
- ・ 新プロジェクト
 - 受発注／配送 CCTS V3/NDR V3 プロジェクト
 - ジャーナルブック
 - PO ファイナンス
- ・ サプライチェーン戦略ワークショップ
 - 購買 (Procurement)
 - 配送 (Delivery)
 - 支払 (Payment)

農業：

- ・ 漁獲高管理 (CCL13B で公開予定)
- ・ 家畜追跡 (CCL14A で公開予定)
- ・ 餌／食物緊急通報システム (CCL13B で公開予定)
- ・ eFood チェーン・プロジェクト (新規)

ユーティリティ：

- ・ IEC TC57 との協力
- ・ ユーティリティ管理データ再利用プロジェクト (日本提案)

旅行：

- ・ 旅館 (SLH: Small scale Lodging House) プロジェクト保守
- ・ 到着地旅行情報 (DTI: Destination Travel Information) プロジェクト開始

2. 統合戦略 (ISF) と作業プログラム (POW)

本年6月の国連CEFACT総会で審議され、8月に改訂版が配布されている統合戦略 (ISF)、および本フォーラム直前に配布された2014年 - 2015年の作業プログラム (POW) について意見交換が行われた。

会議は、第1日目のオープニング・セッションの後に、Bureau 議長 (Stuart Feder) より概要説明が行われ、その後3日目の朝と夕に意見交換セッションが持たれた。

2. 1 統合戦略 (ISF) の骨子

・ ISF は国連 CEFACT の二つの活動 (貿易円滑化と電子ビジネス) を統合した戦略で、マネージメント・ツールであり、また作業プログラム (POW) の導入とその成果を管理する枠組みである。

・ 対象とする作業の原則は次の3点である。

- ◇ 国内および国際の取引プロセスを整備する。
- ◇ IT 技術とは独立した、勧告と標準を開発し、貿易円滑化に資する。
- ◇ 電子ビジネス分野における世界中の関連知識、経験、グッドプラクティスを

利用できるようにする。

- ・貿易円滑化においては、国際取引におけるエンド・ツー・エンドの情報連携を目指して、次の活動を行う。
 - ◇ 貿易手続の簡易化。
 - ◇ 貿易に必要な文書で使われる情報の簡易化、標準化、整合化。
 - ◇ ICT 活用による情報連携の容易化。
 - ◇ 可視化された環境のもとに、売買代金、徴税等が確実に行われる簡易化された支払システムの促進。
 - ◇ 効率的な情報交換を通じて、必要な信用レベルを提供する機能の強化。
- ・電子ビジネスの発展は、取引の可視化を進め、企業にとっての競争力を強化し、世界経済の進展を促す。
- ・サプライチェーンの全ての関係当事者に、必要な情報がタイムリーの安全に届くことを目的に、国連 CEFACT では国際サプライチェーン参照モデルを開発している。

<http://www1.unece.org/cefact/platform/download/attachments/9666570/International+SupplyChainReference+Model2003.doc?version=1>

- ・国際サプライチェーン参照モデルでは、次の5つの共通プロセスを定義している。
 - ◇ 取引相手の探索
 - ◇ ビジネス合意形成
 - ◇ 発注
 - ◇ 出荷
 - ◇ 決済
- ・統合電子ビジネスフレームワークでは、3つの原則を適用することが推奨されている。
 - ◇ 業界横断ビジネスプロセス分析
 - ◇ IT 技術独立で、ユーザ要件を満たすプロセスと情報モデルの記述
 - ◇ それらの要件の新 IT 技術へのマッピング
- ・国連 CEFACT の作業プログラムには二つのキーエリアがある。
 - ◇ キーエリア（1）官民における取引と関連サービスに関わる情報交換機能の向上を目指して、国内と国際の貿易関係手続を整備する。
 - 貿易円滑化のニーズと優先順位を識別する。
 - 国際取引と手続の主要要素の分析と文書化。
 - 技術と手法に関する開発状況をモニターする。
 - 勧告、標準、技術仕様の品質を確保する。
 - ◇ キーエリア（2）国際取引と電子ビジネスの整備に関わる全ての当事者を含めたオープンな対話を進める。
 - 国連 ECE 上級委員会および他の国連組織との密接な活動を行う。
 - 他の組織との協業を進める。

➤ 認知度の向上を図る。

2. 2 作業プログラム (POW) の骨子

- ・本 POW ドラフトは、Bureau の一部の人が作成したたたき台で、フォーラム参加のエキスパートおよび各国の HOD からの意見を求めている。
- ・本ドラフトは、国連 CEFACT の活動の全体像 (パート 1) と活動の詳細 (パート 2) の 2 部からなる。

2. 2. 1 国連 CEFACT の活動の全体像 (パート 1)

・ビジョン

国連 CEFACT のビジョンは、国際ビジネスにおいて簡易で役に立つ効率的な情報交換を可能にすることである。それは、偏見の無い開かれたプロセスを通じて、電子ビジネスに基づく簡便で継ぎ目のない国際取引手続における、勧告と標準を開発することを含む。国連 CEFACT の活動は、国連ミレニアム開発目標 8 「国内・国際の両方で、規則に従った、予見可能で差別の無い、ガバナンスと開発と貧困減少のコミットメントを含んだ、更に開かれた貿易と金融の仕組みを開発する」を支援する。

・中核となる活動

国連 CEFACT は、国と政府と国際ビジネスのニーズに応じて、次の領域をカバーする。

- ◇ 簡易で整合性のある標準の取引プロセス、手続、情報流を識別し、分析する。

2014-2015 Priority :

- 国連 CEFACT 標準を使ったシングルウィンドウ関連の開発を継続する。

- ◇ 国際ビジネスに関わる国とステークホルダーの要件に応じて、貿易円滑化のための勧告、標準、ツールを管理する。

2014-2015 Priority :

- 既存の標準と勧告の保守
- ときには加盟国とステークホルダーの各種の戦略的挑戦に応える

- ◇ 重複を避けて、共に整合性のある国際フレームワークを構築するため、貿易円滑化および標準開発組織のキー・プレイヤーと協業する。

2014-2015 Priority :

- EU および APEC 等の地域活動組織との協力を強化
- 政府機関、標準開発組織および他のステークホルダーとの協業を促す

- ◇ 特に発展途上国に焦点をあて、全世界に国連 ECE 勧告の導入と国連 CEFACT 標準とツールの能力開発を促進する。

2014-2015 Priority :

- 国連 ECE 勧告および国連 CEFACT 標準の発展途上国への促進を継続する

国連 ECE 勧告と国連 CEFACT 標準およびツールは、国際サプライチェーンに関連する広範囲の機能をカバーする。それらには、以下のものも含まれる。

- ◇ UN レイアウトキー（勧告 1）
- ◇ UN/EDIFACT
- ◇ 取引情報コード
- ◇ UNLOCODE
- ◇ シングルウィンドウ勧告（勧告 33、34、35）
- ◇ 国連 CEFACT 国際サプライチェーン参照モデル
- ◇ 国連 CEFACT コア構成要素辞書（CCL）
- ◇ コア構成要素技術仕様

（注）これらのリストに、XML 設計規則および XML メッセージ・スキーマが抜けており、フォーラム中、意見の対立があった。

意見 1. XML メッセージは、シンタックス実装のみならず CCL の品質検証にも必要であり、リストに明記すべきである。

意見 2. XML 等具体的実装シンタックスは技術テーマであり、セマンティック中心の国連 CEFACT 標準の枠を超えている。

・リソース

総会で承認されたプロジェクトは、各国の HOD が指名する広範囲の領域のエキスパートにより遂行される。

2. 2. 2 活動の詳細（パート 2）

・国際取引における簡易化と整合化とプロセス、手続き、情報流の標準化に関する要件の識別と分析

- ◇ 国際サプライチェーン詳細参照モデル発行
- ◇ 国連 ECE 勧告、国連 CEFACT 標準および貿易円滑化ツールのガイドライン発行
- ◇ 国連 ECE 勧告、国連 CEFACT 標準の導入効果報告
- ◇ 貿易円滑化勧告ガイドの開発
- ◇ 国連 CEFACT 標準のオンライン公開レジストリ（多言語）の作成

・国際ビジネスに関わる国とステークホルダーの要件に基づいた、貿易円滑化への支援における勧告・標準・ツールのガバナンス

<開発>

- ◇ 国際サプライチェーン参照モデル・フレームワークに基づく、勧告・標準開発プロジェクトの識別
- ◇ サプライチェーン、貿易・運輸、政府および分野別領域のアウトプットの優先順位付け

- ◇ 全てのプロジェクトを改訂 ODP の基で遂行
- ◇ 開発途上国よりのプロジェクト参加を促進

<保守>

- ◇ 全ての勧告および標準の見直し
- ◇ 全ての保守を改訂 ODP の基で遂行
- ◇ 勧告・標準を全ての国連 ECE オフィシャル言語で発行

<コンFORMANCEと検証>

- ◇ 国連 CEFACT 標準導入の相互運用性のためのコンFORMANCE・ポリシーを開発
- ◇ 国連 CEFACT 標準カスタマイズ導入ガイドの開発
- ◇ 国連 CEFACT 標準導入検証ガイドの発行
 - (注) これに関して、コンFORMANCEおよび相互運用性に関するノート (**Information Note on Standards Conformance and Interoperability**) をまとめるチームが結成された。当チームのまとめ役は Jostein Fromyr (ノルウェイ) で、当職もチーム参加予定。

<手法>

- ◇ 国連 CEFACT プロジェクト要件のためのプロセスモデリング・ガイド開発
- ◇ 国連 CEFACT プロジェクト要件のための文書モデリング・ガイド開発

<技術>

- ◇ 国連 CEFACT 成果物導入支援のツール (オープンソース、非独占ソフト) の開発または利用促進
- ◇ 国連 CEFACT 成果物の生成・発行・保守ツール (オープンソース、非独占ソフト) の開発または利用促進
- ◇ 国連 CEFACT 成果物の英語以外の言語での発行支援

- ・貿易円滑化活動に関わるキー・プレイヤーと標準開発組織とともに、重複活動を避け整合性をもった国際フレームワークを目指して活動する

<SDO との協業>

- ◇ 国連 CEFACT 活動に関係する他組織の活動をモニターし、必要に応じて、重複を避け、相乗効果を図る。(例：貿易円滑化における国連地域委員会との協業、購買における EU との協業)
- ◇ 他の SDO との協業をレビューし、明確な作業分担により、オープンな世界標準の採用を促進する。
- ◇ 国連 CEFACT 成果に重要な影響のあるコア・パートナーを識別し、役割分担と責任を明確にし、効果的な協業の仕組みを開発する。
- ◇ 国連 CEFACT のコア・ミッション以外の技術領域を適切な SDO に移行する可能性を調査する。

- ◇ 発展途上国の関連組織との協調の可能性につき国連 CEFACT 総会に報告する。

<標準開発連携>

- ◇ 国際組織と連携して、加盟国、ステークホルダーおよび特に発展途上国のニーズに合った成果物を開発する。
- ◇ 貿易（越境）に関わる国連 CEFACT 標準開発においては世界税関機構（WCO）と連携する。特に、中小企業および発展途上国の利便を図る。
- ◇ 電子ビジネスに関わる現在の MOU フレームワーク内の連携を強化する。
- ◇ 関連 ISO/IEC 技術委員会との新規連携を考慮するとともに、CEN（欧州標準組織）との MOU 確立を目指す。

<国連 ECE 委員会との協業>

- ◇ 国連 CEFACT と他の国連 ECE エキスパートとの合同活動につき、国連 ECE 上級委員会に報告する。
- ◇ 国連 ECE の複数の拠点を使って、国連 CEFACT 標準と国連 ECE 勧告を普及する。

- ・特に発展途上国に焦点をあて、世界中に国連 ECE 勧告の実装と国連 CEFACT 標準の能力強化を進める

<能力開発>

- ◇ 国連 ECE 事務局および国際組織と協業して、加盟国と他のステークホルダーのニーズ、および特に発展途上国に焦点をあて、現実的な能力開発のための対象を構成する。
- ◇ 政府および民間のディジション・メーカーのための上位管理者向け能力開発パッケージを開発する。
- ◇ 加盟国と他ステークホルダーにおける国連 CEFACT の使用状況と要件を報告する。

<認知度向上>

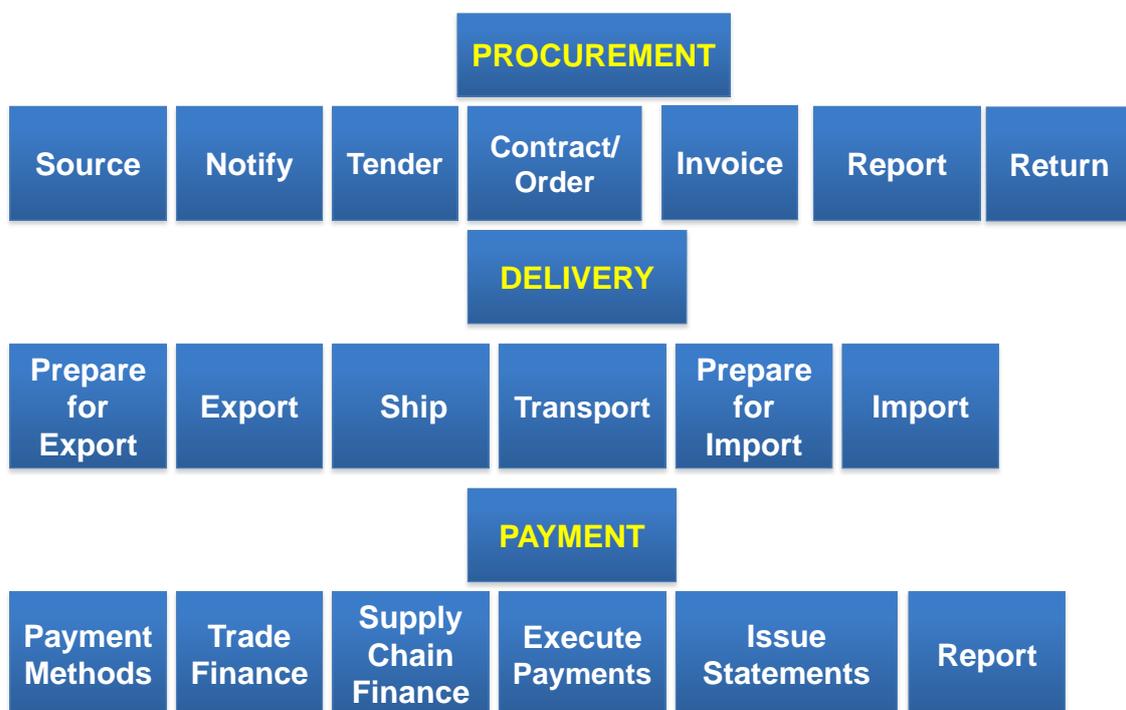
- ◇ 加盟国、他ステークホルダーおよびエキスパートと協業して、国連 CEFACT コミュニケーション戦略を実行する。
- ◇ 国連 CEFACT 成果物の使用と要件につき、地域アドバイザーと協業して報告する。
- ◇ 国連 CEFACT 成果物を国連公式言語に翻訳するリソースを探す。
- ◇ 特定の標準と勧告を導入するための要件を明確にする上級管理者ガイドを開発する。

3. サプライチェーン戦略セッション

サプライチェーン関連では、BUY/SHIP/PAY の枠組みのもとに基本的なプロセスモデルと情報モデルは既に関連されている。今後、ロジスティックスおよびファイナンス領域との連携を明確にした戦略を検討するため、サプライチェーン・ドメイン・コーディネータ（Mike Doran）を中心に、3日間におよぶ戦略ワークショップが行われた。

3. 1 BUY/SHIP/PAY モデルの拡張

サプライチェーンにおける商流・物流・金流を明確にし、それぞれのドメインごとにモデルを整備し、保守管理して行く新たなモデル（下図）が提案され、議論された。



当モデルにつき、当職から「Receipt/Inspection」または「Acceptance」プロセスを追加すべきとの提案を行った。

3. 1 商流（Procurement）についての意見

- ◇ 必要なメッセージや情報構造を探すためのセマンティック・リポジトリが必要である。
- ◇ PEPOL の統合電子ビジネス・フレームワークはグローバルに使えるか。
- ◇ 技術課題の前にプロセス定義についての合意が必要である。
- ◇ 国連 CEFACT はセマンティックス、特にプロセスに焦点をあてるべきである。

3. 2 物流（Delivery）

- ◇ 運輸／ロジスティックス・ドメインがサプライチェーン・ドメイン戦略計画にどのように関与するのか決める必要がある。

- ◇ 輸出準備 (Prepare for export) の前にもプロセスが必要である。
- ◇ 受領/検収 (Receipt, Acceptance & Inspection) も必要である。(当職の意見)
- ◇ リバースロジスティックス (還元物流) はどうすべきか。
- ◇ 市場のニーズに合わせたTime to Marketの考え方を考慮すべきではないか。

3. 3 金流 (Payment)

金融ドメインでは ISO TC68 等において、Payment 分野のかなりの部分が既に標準化されている。

◇ Payment Method

CustomCreditTransferInitiation

CustomDirectDebitInitiation

CredPayActivationRequest

FIToFICustomerDirectDebit

FIToFICustomCreditTransfer

FinancialInstitutionCreditTransfer

◇ Trade Finance

Documentary Credits and Guarantees

EBAM – Electronic Bank Account Management

Trade Services Management (BPO)

Financial Invoice

◇ Supply Chain Finance

InvoiceFinancingRequest

InvoiceFinancingCancellationRequest

InvoiceFinancingRequestStatus

◇ Execute Payments

CustomCreditTransferInitiation

CustomDirectDebitInitiation

CredPayActivationRequest

FIToFICustomerDirectDebit

FIToFICustomCreditTransfer

FinancialInstitutionCreditTransfer

◇ Issue Statements

BankToCustomerAccountReport

BankToCustomerStatement

BankToCustomerDebitCreditNotification

AccountReportingRequest

◇ Report

CustomerPaymentStatusReport

CreditPaymentActivationRequestStatusReport

サプライチェーン PDA で最初に PO ファイナンス・プロジェクトを考慮してはどうか。
PO ファイナンスでは、現状の ISO 標準と重複しない次の3つメッセージが考えられる。

PO Finance Request

PO Finance Status Report – Technical Validation

PO Finance Status Report – Business Validation

以上



オリーブ（サルディニア島）